

Is Providing Recasts Targeting Inappropriate *Keigo* or Japanese Honorific Expressions Effective?

-- An analysis of Participants’ Stimulated Recall Interviews—

「敬語」を対象としたリキャストは有効か？--刺激回想インタビューの分析に基づいて—

キーワード: リキャスト、敬意表現、プライミング発話、刺激回想インタビュー

菅生(高橋) 早千江 Sachie Sugo-Takahashi 目白大学 Mejiro University

1. 問題の所在

・第二言語習得研究の分野において、学習者の誤りをどのように訂正するかは、いくつかの理論やモデルとの関わりの中で活発に議論されている。

・リキャストの定義:

- 学習者の誤った発話に対して、意味を維持したまま、発話のすべて、または一部を正形成して、コミュニケーション上の自然な反応のようにして与えるフィードバックのこと(小柳, 2019)
- Recasts are more targetlike ways of saying what a learner has already said. (McDonough & Mackey, 2006)

・どのよう項目の誤りに対して有効か:

【菅生(2012)】

- 語彙的な項目: 内容語であり、形式の操作の必要がないもの(e.g. 英語の不規則動詞)
- 統語的な項目: 語順の操作を伴うもの、一語を超え、句内で統語的照応があるもの(e.g. 英語の疑問視疑問文の語順)は、学習者にとって統語上のルールの操作が容易であれば有効
- 形態素的な項目: 機能語である、一語の中で形式の操作を伴うもの(e.g. 英語の冠詞 a/an/the)一卓立しないため、有効に作用しない可能性がある

【菅生(2015)(未公開)】

- 卓立性がある項目 / ルール学習ではなく項目学習されるような項目 / 意味の明示性が高い / 学習者の明示的知識 が有効性に影響しているようだ

・日本語を対象とした研究:

- 「～ている」(Ishida, 2004)、「所在・存在」(岩下, 2004)、「受益補助動詞」(菅生2008)、「受益補助動詞、助詞(位置詞＋で) 出発点・通過点」を」(菅生, 2014)
- 菅生(2008) 菅生(2014)で試みた「ストーリーナレーションタスク」は、「コミュニケーションタスクとはいえないのでは?」との指摘

対象とする項目の選定、および特定の項目を発話させるタスク開発は容易ではない

・本研究の試み: 敬意表現を対象項目とすること

- 学習者はルール学習し、明示的知識を得ることが前提。初級後半～中級前半で学習するが、使用には困難を伴う。
- 相手と場面により使い分けるコミュニケーション形式で、より適切な表現にするために口頭訂正フィードバックが自然に行える
- 「いらっしゃる」「召し上がる」のような語彙的なもの、「お/ご～になる」のような卓立性の高いもの、「～ていただく」のような統語的なもの、「(ら)れる」のような形態素的なものがあり、先行研究を踏まえても、対象項目として興味深い

・何に着目して有効性を評価するか:

- リキャストの直後の反応発話「アップテイク」: 効果や気づきの指標ではない可能性 (McDonough & Mackey, 2006; 菅生2015)
- リキャストで対応する処遇を録画し、終了後に対象者に見てもらい、該当のシーンでビデオを一時停止させて何を考えていたか話してもらった刺激回想法 (Mackey, Gass & McDonough, 2000; 菅生, 2014, 2015)
- リキャストで提示された正しい形式を、直後の反復ではなく、インタラクションを継続する中で、違う文脈において、あるいは違う語とともに発話する「プライミング※産出」: McDonough & Mackey, 2006)
※プライミング: 先に受けた刺激の影響で、その後の刺激に対する反応が変わること。プライミングがあることが、暗示的な学習メカニズムで言う「気づき」(小柳, 2019)

2. 研究課題

・外国語環境で学ぶ日本語学習者の尊敬語および謙譲語の回避や不適切発話に対してリキャストは有効か。プライミング発話の有無、および刺激回想インタビューによる学習者のリキャストの認識を指標として検証する。

4. 刺激回想コメントの分析方法

■刺激回想コメントの分類: 菅生(2014, 2015, Egi, 2010; Yohida, 2008)に基づく)

カテゴリー	刺激回想インタビューコメントの種類
1) 訂正理由の理解あり	誤りと正用のギャップの正確な理解を示した／訂正理由に納得したことを表すコメント
2) 訂正理由の理解不明	訂正されたことには気づいても、なぜそのように訂正されたか理解できない／使い分けが難しい、混乱する、などのコメント
3) その他	訂正に気づいたことやギャップを認識したことを示さない／内容やワークシートの指示、感想に関するコメント
4) 内容なし	何を考えていたか覚えていない、言うべきことはない、等のコメント

・チュートリアルセッションでのやり取り例におけるリキャストの指摘回想インタビューコメント例

1. 協力者N: あの、すみません、田中さんご夫婦ですか？ 【不適切を含む】	10. 協力者N: 田中さんは、今の前、ポーランドにきたことがありましたか、ありますか。 【不適切を含む】
2. 調査者: うん、田中さんでいらっしゃいますか。 【リキャスト1】	11. 調査者: いらっしゃったことがありますか 【リキャスト4】
協力者N: そのときはけいごになれていませんでしたね。けいごはあまり...、むずかしいですね。Because we don't really use keigo in our lessons, I mean talk to each other, it's really hard for me to use in conversation. What I thought is that because the couple is about 60 years old, I thought I have to speak in Keigo, because they are much older and I should be more respectful, あの、そんなに年上の人と話したことはありません。学校の先生以外。「いらっしゃいますか」のあと、Obviously, it was that the answer. I thought of the textbooks saying that, but for some reason I was unable to access this character and I made a mistake. →分類: 訂正理由の理解あり	協力者N: This time I switched the past tense and present tense since I said ありました。It is あります。I guess I switched it with Polish because in Polish we use past tense talking about such things. We don't use present tense asking, do you have an experience of doing something. This is why I can't use proper tense. In Polish we just say “byłas” which means present tense. → 分類: 訂正理由の理解不明-「来た」を「いらっしゃった」とリキャストされていることではなく、「ありましたか」を「ありますか」と自己訂正していることに対する言及に終始しており、「いらっしゃった」と訂正されたことに気づいたかどうかが不明なため

・他の協力者による刺激回想インタビューコメント例

1. 協力者L: お土産を買ったことがありますか。 【不適切を含む】	1. 協力者F: 田中さん、どうもありがとうございました。お大事に。気をつけてくださいな。 【不適切を含む】
2. 調査者: うん、お土産をお買いになりましたか 【リキャスト】	2. 調査者: うん、ツアーはここで終わらせていただきます。 【リキャスト】
協力者L: 次の質問について考えました。どんなお土産が見える。どんなお土産をお勧めしたい方がいい、クラクフの有名なお土産、ポーランドの有名なお土産 →分類: その他--タスクの内容についてのコメント	協力者F: 何も考えていませんでした。 →分類: 内容なし

6. 考察

・尊敬語の「いらっしゃる」「召し上がる」などの特定形、「お/ご～なる」「お/ご～ください」、謙譲語の「～させていただきます」(昨今よく指摘される過剰使用ではない、相手の許可を得て話者が謹んで行う謙譲表現)は、卓立性、意味の明示性を満たしている。対象者に既有知識があれば、有効に作用する可能性がある。一方で、「(ら)れる尊敬語」は、受身と同じ形式であることで、受身との混同も見られた。一語の中の活用形の操作であり、卓立性も低いことで、正確な理解が得られない可能性がある。

・敬意表現に関する対象者の知識は「明示的知識」であろう。プライミング産出は本来暗示的なものだが、プライミングによってインプットによる理解と、対象項目のアウトプットの産出が促進され、「宣言的知識の手続き化」が促進されると考えられる。(McDonough & Trofimovich, 2009:12)

8. 参考文献

岩下 倫子 (2004). 「第二言語習得における会話練習の役割: 否定フィードバックの先行研究の概要と今後の研究課題」『第二言語としての日本語の習得研究』7: 163-185.
小柳かおる(2019). 「第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと」『くろしお出版
菅生早千江 (2008). 「受益表現の誤用と訂正フィードバックに対する中級日本語学習者の反応: リキャストと自己訂正を促す介入の比較」『日本語教育』139: 52-61.
菅生早千江 (2012). 「文法項目を特定したリキャストの効果に関する研究概観—文法項目の特性とリキャストの与え方に着目して—」『第二言語としての日本語の習得研究』15: 5-25.
菅生早千江(2014). 「特性の異なる文法項目に対するリキャストのアップテイクと認識—刺激回想インタビューの分析—」『Studies in Language Sciences, 13, Society for Language Sciences, 192～217.
菅生早千江(2015). 「中級日本語学習者の文法項目の誤りに対するリキャストと与え方—アップテイクと訂正理由の理解に着目して—」『お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士論文(未公開)
Egi, T. (2010). Uptake, modified output, and learner perceptions of recasts: Learner responses as language awareness. *The Modern Language Journal*, 94, 1-21.
Ishida, M. (2004). Effects of recasts on the acquisition of the aspectual form -te i-(ru) by learners of Japanese as a foreign language. *Language Learning*, 54, 311-394.
Mackey, A., Gass, S., & McDonough, K. (2000). How do learners perceive interactional feedback? *Studies in Second Language Acquisition*, 22, 471-497.
McDonough, K. & Mackey, A. (2006). Responses to recasts: Repetition, primed production, and linguistic development. *Language Learning*, 56, 693-720.
McDonough, K. & Trofimovich, P. (2009). *Using priming methods in second language research*. New York: Routledge.
Yoshida, R. (2010). How do teachers and learners perceive corrective feedback in the Japanese language classroom? *The Modern Language Journal*, 94, 293-314.

3. 方法

・調査協力者:

- ポーランドにおける日本語専攻大学生15名(2年生6名、3年生4名、4年生5名)
2年生のはじめに敬語の学習を終えている。いずれも旅行以外の滞日経験はない。中級～中上級と判断した。
- 「ツアーガイドのロールプレイを通して話す練習をする教材を開発中。モニターをしてくれる協力者を募集した。
録音、録画をするが、資料の取り扱いに関する研究倫理規定の厳守を約束し、許諾手続きを取る。
- 協力への謝礼として、現地の時給相当の謝金および日本のギフトを進呈

・調査時期: 2019年3月

・調査方法:

- 調査協力者と調査者として1対1のチュートリアルセッションを実施
「ツアーガイドのタスク」として、6つの場面での12のタスクに対応する。

時間	実施内容
10分	自己紹介、Ice-breaking (緊張ほぐし)の雑談、データ収集に関する許諾手続、日本語学習経験に関するインタビュー
5分	タスクの説明
25分	ツアーガイドのタスク 敬意表現等の不適切な発話にはリキャストで対応 【録画】 (3分程度の休憩)
35分	再生画面の視聴・刺激回想法インタビュー 【録画】
5分	タスクの語彙や文法に関する質問に答える、その他

・チュートリアルセッションでのやり取り例

(調査者はゲスト「田中さん」の役をする)

＊Scene1: ホテルであいさつ

- 協力者N: あの、すみません、田中さんご夫婦ですか？
【不適切を含む】
- 調査者: うん、田中さんでいらっしゃいますか。
【リキャスト1】
- 協力者N: (アップテイクなし・タスク継続)
おはようございます。Oともうします。
今日は私は... 田中さんのガイドです。
- 調査者: うん、ガイドをさせていただきます。【リキャスト2】
- 協力者N: ああ (笑い)
どうぞこちらのソファーにおかけになります。
おかけになってください。【自発的な正用発話】
- 調査者: まあ、ありがとう。お話ししやすいわね。

＊Scene2: ルートのせつめい

- 協力者N: それではまず、バシュトバ通りに行って、
バルバカン..のガイドをさせていただきます。
それから、... 【リキャスト2のプライミング発話】

＊Scene3: 軽いやり取り

- 協力者N: 例えば、田中さんはどこからいらっしゃいましたか。
【リキャスト1のプライミング発話?】
- 調査者: はい、どちら
横浜からです。
- 協力者N: 田中さんは、今の前、ポーランドにきたことが
ありましたか、ありますか。【不適切を含む】
- 調査者: いらっしゃったことがありますか 【リキャスト4】
いえ、はじめてめて来たんですよ。
- 協力者N: 旅行は何日でいらっしゃいますか。
【リキャスト1のプライミング発話・不適切・不完全】
- 調査者: 旅行は何日でしょうか。【リキャスト5】
今回は8日間ね。
- 協力者N: クラクフの後には、ほかのポーランドの街に
いらっしゃいますか。
【リキャスト4のプライミング発話】

5. 結果

・対象者が受けたリキャストの数、その際の刺激回想コメントの分類、プライミング発話の総数

	協力者	学年	タスク全体 リキャスト 総数	敬意表現						備考 リキャストと同じ項目ではないが、 自発的に正用が産出された
				リキャスト 数	刺激回想コメント分類（菅生2014、Egi.2010）		その他	内容なし	プライミング 産出	
					訂正理由の 理解あり	訂正理由の 理解不明				
1	A	3年生	22	16	6	5	2	3	6(▲2)	
2	B	2年生	12	8	0	3	4	1	2	「でいらっしゃいますか」「いかが」
3	C	3年生	13	12	7	2	1	2	5(▲1)	
4	D	2年生	15	11	4	4	1	2	1	
5	E	4年生	14	10	2	4	1	3	3	
6	F	4年生	11	11	1	5	1	4	1	
7	G	3年生	17	12	5	4	1	2	4	「ご説明しましょう」
8	H	4年生	21	14	5	7	0	2	4	「お買いになる」「召し上がる」
9	I	3年生	12	11	2	6	0	3	5（▲2）	
10	J	2年生	17	13	1	8	0	4	4（▲2）	
11	K	2年生	18	14	1	7	2	4	1	
12	L	4年生	14	13	3	5	1	4	3	
13	M	4年生	13	13	2	8	2	1	4(▲1)	「ガイドをさせていただきます」
14	N	2年生	9	8	6	1	1	0	5(▲1)	「おかけくださいになってください」
15	O	2年生	13	12	7	4	0	1	6(▲2)	

▲: 不完全

- ・協力者15名全員から敬意表現のプライミング産出があった。
- ・そのうち10名はプライミング産出に先立って、「訂正理由の理解あり」と分類されるリキャストを受けている。
- ・残り5名のうち2名(H,M)がそうではないのは、リキャストを受けるより前に、タスクの開始早々自発的に適切な敬意表現を使うことができているためである。
- ・D,F,Iについては、「プライミング産出」より前に受けているリキャストは「訂正理由の理解不明」と分類されている。
- ・「敬語は難しい」等とコメントしているが、リキャストを正確に理解していないことの証明にはならない。
- ・「思われますか」など、「(ら)れる」尊敬語は、タスク中4回試みられたが、いずれもコメントの分類は「内容なし」であり、プライム産出も導いていない。

敬意表現に対するリキャストは「(ら)れる尊敬語」以外は有効に作用している可能性がある

7. 今後の課題・教育実践への示唆

- ・タスクおよび手続きを精緻化したい。
- ・学習者の母語による誤用の傾向: 敬意表現そのものではなく、「召し上がりたいですか」(昨日から滞在している旅行者に昨夜の経験を尋ねて)「ポーランド料理を食べたことがありますか」などに、リキャストでどのように対応するか。
- ・「敬語は「尊敬語・謙譲語・丁寧語」「ウチソツ」のレクチャーと表に基づく文変換が主で、会話の中で使ったことがなかった」という学生に対しては、実践的な練習としては有益なわけではない。
- ・敬語使用は、ひとこと一文の発話で事足りることは少ないだろう。どのように話しかけて、どのように終えたいのか、などの練習を含めることもいい機会だと思われる。

謝辞

本調査をお認めいただきましたヤゲロン大学日本語・中国語学科の学科長はじめ教員の皆様、調査協力をしてくださった学生の皆様に心よりお礼を申し上げます。

本調査は 平成30年度～令和3年度科学研究費補助金研究「日本語学習者の補助動詞及び助詞の誤りに対する口頭訂正フィードバックの効果の検証」(若手研究, 課題番号18K12421, 代表者: 菅生早千江)の一環として実施したものです。